

# れんけい君

発行元：地域医療連携室



## インフルエンザ治療薬

薬剤科



国家公務員共済組合連合会  
舞鶴共済病院  
〒625-8585  
京都府舞鶴市字浜 1035 番地  
TEL 0773-62-2510 《代表》

今年もインフルエンザの季節がやってきました・・・。近年、新型インフルエンザの影響で、平年よりも早く流行する年がありますが、今年は、今のところ、京都府でもそろそろ流行り出すかといった状況です。流行のピークは、平年であれば1月下旬から3月になります。今回は**インフルエンザの治療薬**についてお話しします。

インフルエンザの治療薬は、**症状が出てからできる限り早く使用**することが重要です。インフルエンザウイルスは、症状が出てから2～3日で一番多くなるからです。多くなる前にお薬でウイルスの増殖を抑えることで、症状の悪化を防ぎ、治るまでの期間を短くすることができます。

日本では、①**内服薬**のタミフル、②**吸入薬**のリレンザ、イナビル、③**注射薬**のラピアクタの4種類が発売されています。

### ① 内服薬

タミフルは、通常成人1日2回1回1カプセルを5日間内服します。腎臓の機能により調節することがあります。また、小児用にドライシロップもあります。ドライシロップは、体重により投与量が決まります。

### ② 吸入薬

リレンザは、通常成人・小児に1日2回1回2吸入を5日間、イナビルは、10歳以上は1回4吸入、10歳未満は1回2吸入です。1回使用するだけで気道・肺に長時間とどまり効果が持続します。

### ③ 注射薬

ラピアクタは、1日1回の点滴注射になります。症状によって投与する日数が決まります。

通常は、吸入薬のリレンザ、イナビル、吸入が出来ない場合は、内服薬のタミフルが処方されます。ラピアクタは、点滴注射の為、吸入や内服のできない方、入院患者様、重症の病状の患者様などに使用されます。

**副作用**としては、下痢などの**消化器症状**、**発疹**などが一般的です。また、異常行動等の**精神・神経症状**を発現した例が報告されていますので十分な観察が必要となります。

中でもタミフルに関しては、10歳以上の未成年者への投与は、必要と思われる場合を除いて使用を差し控えることが原則となっていますが、今のところ異常行動と薬には、明確な因果関係はなく、インフルエンザ自体の症状でもあることが報告されていますので、インフルエンザのお薬の使用に関係なく、異常行動等に注意が必要です。吸入薬の副作用の頻度は少ないですが、喘息など呼吸器疾患のある方は、**呼吸困難、気管支痙攣**などの報告があり観察が必要です。

また、小児のインフルエンザの発熱に対する**解熱薬**によっては、**脳炎・脳症の悪化**などが報告されています。

解熱薬にはアセトアミノフェン（成分名）が推奨されていますが、使用する際は、医師・薬剤師にご相談ください。

以上のようにインフルエンザの治療薬についてお話ししてきました。お薬を効果的、また安全に使用するには、用法・用量、服用期間を守り、異常が見られた場合は、医師に相談していただきたいと思います。インフルエンザは、小児では、**脳炎・脳症**、高齢者では、**肺炎**などの合併症が起こる可能性があります。やはりインフルエンザは、**ワクチンの接種、うがい、手洗い、室内の加湿・加温、必要であればマスクの着用**など日常から予防を心がける事が大切です。



## 『かかりつけ医』をもちましょう！

**紹介状**があれば以下のようなメリットがあります

- 初診にかかる**選定療養費（2,100円）**が不要です。
- 事前に受診予約ができます。
- 病気の経過や服用中のお薬が判るので治療や診断に役立ち、検査やお薬の重複が防げます。

**一般内科・消化器内科および歯科口腔外科の初診は、他院からの紹介状が必要となります。**

**その他の診療科については、紹介状がなくても診察いたします。**

**ただし、かかりつけ医がある場合は可能なかぎり紹介状をお持ち下さい。**